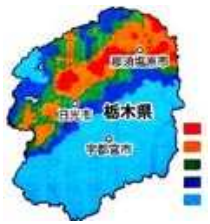
放射能から子どもを守り
１人の被ばく者も出さない

〈日光･放射能から子どもを守る会〉2012.03.09//no.20

〈放射能の恐ろしさを考える〉-3

日光でも小さな子は疎開も!!



赤10～30万,黄6～10万
緑3～6万、紺1～3万
水色～1万　ベクレル/㎡

地表面セシウム汚染地図
2011.08. 02現在換算値

チェルノブイリ原発事故では、特に子どもたちに多くの低放射線量被ばくによるさまざまな疾病が報告されています。なぜ、子どもたちに多くの疾病が････

放射線は、細胞のＤＮＡ（遺伝子）に損傷を与えます。人間には損傷を受けても回復力もあります。しかし、特に、最も細胞分裂の活発な妊婦（胎児）、乳児は、損傷を受けるとダメージが大きく、修復が間に合わないことも含めて、成人の約10倍の感受性が高いといわれています。そして、乳児は、ほぼ1年2カ月話したり歩き始めたりするころから発育の速度がゆっくりなって子どもへ成長していきます。それとともに徐々に放射線に対する感受性が低くなってゆき一般に子どもは成人の2～3倍と言われています。

また、女児（女性）は男児（男性）より感受性が高くなっています。なぜなら、女児は、生まれた時から卵母細胞を持っています。この細胞は、新たにつくられることがなく、思春期になると毎月成熟して卵子となり1個ずつ排卵します。このことから、乳幼児のころから出来る限り、放射線被ばくをさけることが求められます。

❖　❖　❖

政府の年間1ミリシーベルト以上の地域を除染する基準とは、安全基準ではありません。あくまでも政府がこれくらいカネを負担することで、いくばくかの健康被害はやむを得ないという大人を前提とした規準です。ですから前に見た妊婦（胎児）、乳児、子ども、女性など感受性が高い人のため最大限放射線量を下げる環境を考えていません。内部被ばくを含めた放射能の危険性を知らせ、日光市でも、これらの人たちの疎開も含め、1日でも早く原発崩壊前の放射線量まで下げることが求められています。

日光市は、県の要請を受けて、子どもたちにガラスバッチ(小型放射線量積算計)を配布しましたが、子どもたちを被ばくさせない場所に一日でも早く疎開させるべきです。

風が吹くときは
マスクをしよう!!
布団干し、洗濯物は室内で

風の吹く日は、地表の放射性物質をまきあげ、それを吸い込むことになります。身体に入ると内部被ばくの危険が高まります。また、布団・洗濯物に放射性物質が付いては困ります。チョッとの注意の心がけを！

日光市の該当するゾーンは？

❑チェルノブイリ･ゾーン　❑〈1999.ナスビット論文より〉

①　移住義務ゾーン	5mSv/年以上
②　移住権利ゾーン	1 mSv/年以上
③　放射能管理強化ゾーン	0.5 mSv/年以上

②移住を希望すれば資金など支援。
③厳重な放射能汚染対策を実施する地域。

❖年1mSv/時 0.114μSv/公衆被ばく限度基準/ICRP
内部被ばく含まず、成人対象/妊婦、乳児など敏感無視

❑ 政府の放射能除染基準//毎時0.23μSv ❑
〈日常生活で8時間以上屋外活動禁止が前提など〉
❑栃木県原発崩壊前//0.030～0.067μSv/h❑

日光市放射能汚染分布

2011.10.03-12 調査/日光市
測定地上 50cm
マイクロシーベルト/以上～未満

0.1 未満	1ヶ所	0.2%
0.1-0.2	155ヶ所	28.8%
0.2-0.3	187ヶ所	34.8%
0.3-0.4	152ヶ所	28.3%
0.4-0.5	30ヶ所	5.6%
0.5-0.6	10ヶ所	1.9%
0.6-0.7	2ヶ所	0.4%
0.7-0.8	1ヶ所	0.2%

〈放射能の危険!〉見たり聞いたり話したり

❑住宅地の多数ある『児童ひろば』 を測定せず　！！ ❑
〈1年経っても危険がいっぱい日光市は知らぬ顔〉　単位/毎時マイクロシーベルト/μSv/h

住宅地にチラシ配布をすると、よく『児童ひろば』を見かけ、気になる放射線量です。放射能は小さな子には大変危険です。なぜ、日光市は測定しないのでしょう。測定を申し入れましたが･･･。日光市は子どもを心配することはないようです。

❖放射線から子どもを守るため、児童ひろばの測定･除染の声を !!❖

『児童ひろば』は面として(2～3m 間隔)で地上 1cm、50cm の線量、遊戯機器周辺の測定を直ちにしてください。除染により、少なくとも放射線量は、0.114(年 1mSv/h)以下、ZERO に近づけてください。除染するまでは立ち入り禁止とし囲いをしてください。
＊日光市、自治会は、直ちに測定をし、除染をするよう、声を上げよう。
＊日光市、自治会が動かなければ、子どもたちのため有志で動くしかありません。

❖高い『カタクリの湯』敷地内の『児童ひろば』の線量//3 月 4 日 13:50❖

滑り台下　2.186　　滑り台上　0.297　　ブランコ下　0.408　ブランコ椅子　0.321
市役所、「カタクリの湯」管理団体も測定をせず、話をしても対応しません。怖いです。

❑日光連山からの風で急に放射線量上昇　‼ マスクを！❑

陽射しのよい日、住宅地にチラシを配布していると、時たま日光連山からの風で、またたく間に放射線量が上昇します。七里では 0.25μSv/h前後が 0.390μSv/hまで急上昇、土沢で 0.17 前後が 0.21 以上に、瀬尾のある住宅地では 0.20 前後が 0.255 まで上昇しました。現在、放射性物質の多くは地面にあるようです。風が吹くと巻き上げて、この放射性物質が付着したチリを吸い込み内部被ばくになります。なるべく風のある日は、花粉対策と同じようにマスクが欠かせません。

❖チラシ･バックナンバー見れます//PDF　http://atsugichild.web.fc2.com/
〈日光･放射能から子どもを守る会〉tel･0288-26-0130//nairamdal-1871@dream.jp

日光市は『安全宣言』９月に 0.2 以下と叫ぶ姿勢！
放射能の危険を知らせず、子どもたちは置きざり！

3月1日、先月 19 日に引き続き、相模原、厚木の日光への修学旅行を心配している仲間と神奈川新聞記者が同行して、日光の線量測定と実態を聞きに来ました。東照宮、小学校、中禅寺湖など訪れ、積雪のため、前回よりも、低い線量になっていました。地方の子どもたちは、修学旅行で汚染された日光を訪れ、日光の子どもたちは高い線量の中に取り残される中、放射線からお互いの子どもたちを守ろうと理解が深まりました。

大震災から、もう1年です。政府、栃木県、日光市は、放射能汚染から子どもたちの被ばくの危険を知らせず、マスコミは、政府、自治体の言いなりの報道です。マスコミは、日光や那須地方、県内の子どもたちが放射線汚染の中での生活を報道したことがあるでしょうか。弱い立場の人の味方という幻想を捨てた方がよさそうです。長期的に放射能汚染された地域で、個人では避難もままならず厳しい状況です。少しでも、少しずつでも個人解決ではなく、小さな力を結びつけていければと思います。

❖　❖　❖

日光市は、昨年９月 22 日のチラシで『**当市の放射線量は、原発事故当時と比べると大きく減少し、現在は、おおむね 0.10～0.20 マイクロシーベルト程度・・高い放射線量がある場所は・・・「局地的な箇所」(ミニホットスポット)となって、雨どい出口付近に多く、側溝内の土砂や落葉がたまっている箇所・・この点に注意していただければ、あとは普段とおりの生活を心がけてください。**』との認識です。ですから、放射能の危険性を知らされません。しかし、現実は、日光市の 10 月測定で、7 割強が 0.2 以上、今年１月の小中学校などで市の測定値は、平均値 0.2 以上が 6 割以上です。日光市は、いつまで誤魔化し続けるのでしょうか。1年経ち、これからも子どもたちは放射能汚染の場に縛りつけられ続けることになろうとしています。

日光市は、政府の除染計画について、「今年度中に計画を立てる」と言いますが、「2年以内に」「3年から6年で」「どこを除染かではなく、除染するかどうか検討している」など、除染する意思のない声が聞こえてきます。

日光の子どもたちは、福島県の陰に隠れて取り残されてきています。私たちは、今後とも、多くの人たちに放射能被ばくの恐ろしさを伝えたい。そして、少なくともチェルノブイリ・ゾーンと言われる年間 1 ミリシーベルト以上では、移動の権利、そして、最大限小さな子どもなどは移動を進めるなど、行政の支援が得られるように考えています。

❑ **538**カ所/2011.10.03～12/**日光市測定**(地上 50cm　1km 間隔で測定)　毎時マイクロシーベルト

❖大室地域　0.17-0.2-0.21-0.21-0.22-0.23-0.24-0.3-0.34
❖土沢地域　0.17-0.17-0.18-0.22-0.23-0.24　❖大沢町地域　0.16-0.19
❖板橋地域　0.13-0.14-0.15-0.2-0.2-0.2-0.24

放射能から子どもを守る
５年後、子どもと笑って過ごしていたいです♪
8

あるお母さんは、【1ベクレル】でもあったらイヤだと

○×市在住/仮名　ナナオ

年間許容値の20ミリシーベルトでしたっけ？！

でも、後から、『生涯100ミリシーベルト』まではOKなんて言ってますが、よく考えると、年間20ミリなら、5年で一生分の放射線浴びちゃいますよね。。。？

5年って。。。とんでもないこと言ってますよね、行政は。先日の瀬川先生の話でもあったように、放射線ってゼロならそれにこしたことはないですものね。できれば、もちろん、ゼロを目指したいです。

給食もしかりですが、でも、でも、やっぱり”ゼロ”は難しいかもしれないですね。。。

ここ、栃木の3月、4月の放射性降下物の量、知っていますか？ものすごい量ですよね。莫大な量。けた外れ。鳥肌ものです。

それだけの量、放射性物質が、ここ栃木には降ってしまったんですよね。。。

ちょーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー細かい”チリ”を全て集めて、取り除くことは不可能ですものね。ゼロがいいけど、無理ですね。

北海道の牛乳からも0．08ベクレルとか出ちゃってますし。。。

それこそ、給食の材料は、全て西日本産、または海外産じゃないと。ってなっちゃいます。学校は、お金をかけてまで仕入れてくれないですよね。安い給食費で、地元の八百屋さんから売れ残った地元産の野菜を安くさばかれてるんでしょうね。考えたくないですけど。。。

栃木に住むってことは、小なり放射能を受け入れて、いかに少なくできるかを考えての生活になってしまうのでしょうかね。。。難しいですね。。。

わたしの子どものクラスのあるお母さんは、【1ベクレル】でもあったらイヤだとのことで、給食は食べずに、お弁当を作って持たせてますよ。内部被曝は≪足し算≫のように蓄積されるって言いますから、たとえ、5＋8＋23＋・・・・・・と、ひとケタ、ふたケタくらいの数字でも、馬鹿にはできないですよね。

話は、ちょっと違っちゃうかもしれないですが、わたしがこの前、ツイッターで、市の教育長に給食の放射能を測って欲しいと言ったら、『器械が高い』と切り捨てられ、しかも、給食は『安全』だと言っていたことを言ったら、ツイッターの人が、”給食の安全を確認するために測るのにね”って言っていた。なるほど、そういう見方もあるのだと思ったわたしでした。今度、教育長さんに会ったらこう言ってみよう♪　〈次号に、つづく〉

❑「こども　まもりたい」神奈川県内市民グループ　http://ameblo.jp/hirohaco/
❑厚木子どもを守りたい　http://atsugichild.blog.fc2.com/blog-category-23.html